オーディオ実験室収載

LINN LP-12 の再構成(27)
－JBL4350A での試聴－

１． 始めに

前報(26)までは FAL C90EXW での試聴でしたが、今回は LINN LP-12 の軸受けを新規のカルーセルキットに交換することを受けて JBL4350A でその効果を確認しました。

２．LINN LP-12 の再構成の実施内容と試聴方法

改造の実施内容は、前報(23)で述べたとおりです。

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス／バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力します。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス／バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→F-15→マルチアンプ駆動→JBL4350A

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

最後に聴いたのは、TruPhase の導入後で、TruPhase の導入(13) で報告しています。その後は前報(24)のような改造を行っています。

使用した盤は、前報(24)でも使用した次のものです。

Deutsche Grammophon　483-6927/6928/6929
J.S.Bach　Sonatas & Partitas
Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551
ベートーヴェン　三つのピアノソナタ（選帝侯のソナタ）
ゲザ・アンダ（ピアノ）

LONDON KLJC-9180/9184（RTI／キングレコード）
リヒヤルト・ワーグナー　ワルキューレ全曲
ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

CBS SONY 25AG 407

津軽三味線

高橋竹山

Riverside Rlp9407

Bags meets Wes

3. LINN LP-12 の再構成後の試聴結果

ZANDN Model 120 の設定は前報(24)と同じ条件設定です。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929 の.Bach の Sonatas & Partitas は、JBL と Deutsche Grammophon の組み合わせでヴァイオリンを心地よく聴くということは、これまで考えられなかったことですが、音像が大きくなりすぎる点はやむを得ないとして、予想外に無難にバロックのヴァイオリン曲を聴かせてくれます。

ドイツグラモフォン MG9551 の選帝侯のソナタは、高音はキンキン言わずに艶っぽく、低音はグランドコンサートらしくスケール感があります。

LONDON KLJC-9180/9184 のワルキューレは、金管や打楽器は迫力があり、弦の合奏や歌手達の声も無難にこなしており、ワーグナーらしさが感じ取れます。

CBS SONY 25AG 407 の高橋竹山は、バチのアタック感が素晴らしく、厚みがあって、いかにも太棹を聴いているという印象です。

Riverside Rlp9407 の Bags meets Wes は、ヴィブラフォンもベースその他もよく弾んで、いかにも JBL でジャズを聴いているという感じです。

４．まとめ

LINN LP-12 のカルーセルキットへの更新の効果を JBL4350A で確認できました。

以上